

芝の世界では、
背が低いヤツほど
もてはやされる。



管理が省ける高級日本芝

百年の芝
ひめの

Zoysia japonica cv. Himeno

特許法品種登録第9209号

関西造園土木株式会社



遺伝資源コレクション3000種の中で特に小型の「ひめの」。

「ひめの」はゾイシアンジャパン株式会社が保有する国内遺伝資源コレクション「M&Y Collection」から、約10年間の厳し
の結果選り抜かれた究極の日本芝。植付け後の管理を省く
特性を有した国産優良品種です。



緻密

High

非常に密度の高いターフを形

単位面積内の葉数の多さをもって緻密と言
数は群を抜いて多く、標準型ノシバの3倍以上



同じ土壌、栽培管理条件下で「ひめの」(左)と標準ノシバ(右)は



短葉

Super dwarf type

葉が短く、放置しても10cm以下をキープ。

ひめのの葉の長さは、ノシバの中では群を抜いて短く、短さではコウライシバと見間違えるほどですが、葉幅が広く、がっちりした草姿でイメージはやはりノシバです。ほとんどのノシバは放置すれば草丈が20cm~30cmになり、本来が荒く大型です。しかし「ひめの」は放置しても5cm~6cm程度で、なびいて倒れるようなことはありません。多肥栽培の圃場のほりでも10cmを越すようなことはなく、やはり特異な短葉を保持する不思議な新芝種と言えます。ひめのは、コウライシバにもない、ノシバにもない珍しい特性を有しています。

ひめ

Zoysia japonica cv. Himeno

少穂

Less headings

穂がほとんど出ず目立たない。

穂がほとんど出ないと言うことは「ひめの」の七不思議の中でも大きな特性で、景観を重視する芝生にとっては非常に大切であり、有用なことであります。この時点こそ、見た目での芝生の優劣がはっきりとてきます。

穂の結実には芝生にとって大きなエネルギーの消費であり、生育のためのひとつのブランクです。従って他種が一斉に出穂するこの時期でも「ひめの」の生育は継続されており、花粉による被害もありません。しかし、実際には全く出穂がないのではなく、わずかにあります。大体標準型の30分の1(1㎡あたり100/3000本)程度で、しかも穂長が短くて目立つことがありません。またこの少ない出穂も時期が標準種に比べ3週間ほど遅いことでもあり、注意していなければわかりません。



出穂時期のひめの(写真手前)と従来の日本芝(写真奥)



日本芝(中型ノシバ) Meyerの出穂状況

従来の日本芝(野芝、高麗芝)はこのような出穂する。



出穂時期の「ひめの」

「ひめの」は、穂がほとんど目立たない。

耐寒

Superior cold tolerance

耐寒性も抜群。春の芽立ちもいい。

ひめのが生まれた当社比較試験圃場は標高が650m、冬期の低温ピークはマイナス13℃が何度も観測されるほど寒い場所です。従って耐寒性の試験圃としては十分な条件を満たしており、ひめのはここで10回以上の越冬をクリアし、その耐寒性は証されています。

一般的に東西諸島方面の芝種は生育の早い特徴がある一方、耐寒性がなく、交配種では春の芽立ちが問題となる場合がよくあります。そんな中でも「ひめの」は例外的に耐寒性が強く、毎春の発芽は非常によく、安定しています。

指のノシバ遺伝
長期評価試験
7つの不思議な

er density

成。

いますが、「ひめの」の葉
上の高密度を有します。



工が大きくなる。



他の交配種(写真中央と奥)と比較して一段と色が濃い「ひめの」(写真手前)

濃緑 Dark green color

肥料がなくても自然に色が濃い。

葉色がブルー系の日本芝はほとんど天然では存在せず、淡黄色が基調となっていますが、「ひめの」はその数少ないブルー系の濃緑色を有しており、当社M&Yコレクション360種の中でも一目で判るほど、特徴ある美しさがあります。なお、少肥で放置された場合、生育は確かに衰えますが色落ちが少ないと言う不思議な特性があります。このため他の淡黄色系の日本芝のように少肥のとき起こる色むらが目立つことがありません。年間の緑葉期間は標準ノシバよりやや長い程度であり変わりません。休眠の葉色はオレンジの混じった淡黄色に変わります。



他種と比較して一段と密度が高く、色の濃い「ひめの」(写真左下)と自然に劣化していく系統(写真右下)。

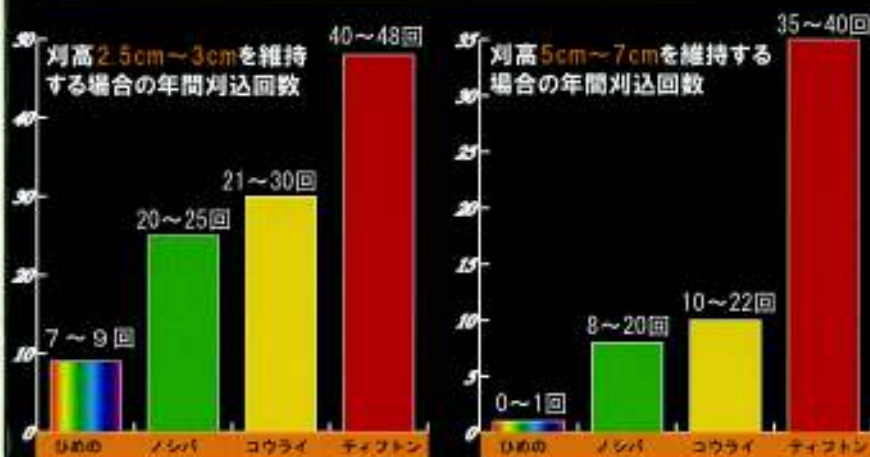


安定 Long term stability

放置しても安定して高品質。

芝の安定性とは、放置(サッチングなどの更新作業をしないこと)によく耐えること、及び春の芽立ちが強く順調なこと、生育のむらや徒長がなく草丈の平均が保たれること、などをいいます。「ひめの」はこの安定性がとくに高い芝種であるといえ、これは「省管理型芝生」としての特性を発揮する最も重要な部分です。また、ひめのは生育にむらが少なく、平均した外見を保つことも安定感を与えます。

ひめのを使うと刈込み回数が激減します。



強健 Tough and stiff

すりきれ・踏圧への抵抗性は極強。

ひめのは、葉が短く小さいにもかかわらず、地下部や地表のほふく茎は太く硬く、不似合わないほど丈夫です。また地下の根茎層(ライゾーム層)が厚く、従ってほふく茎が多く、発芽力も強く、緻密さ、即ち密度が非常に高いため、他の日本芝との比較では、すりきれ踏圧に対する抵抗性が強く顕著です。適切な肥培管理が行われれば、ノシバ中層上位と思われる。また、ノシバはもともと密度のほか、葉の硬さや強靱さも強い方ですが、その中でもひめのは最も強い部類に属しますので総合的な強健さでは日本芝(ノシバ、コウライシバ等)中、最上位に入るものです。しかし、生育は早い方ではなく、安定性のある生育を続けます。

■ すりきれ・踏圧抵抗性と回復力について

回復力の早い芝ほど、管理が大量

一般的に、芝生は生育の早い品種ほど概念的に「強い芝」と考えられています。つまり、すりきれダメージに対する回復力が早いことと解釈されがちです。しかし、それは最良の管理作業(刈込み、肥料、水やりなど)が前提となり、これらを制限すると当然その特性を発揮させることはできません。最近では生育の早い品種が次々と開発されていますが、「ひめの」は強く旺盛ですが、生育が早い方ではありません。

すりきれへの強さと回復力は異なる

確かに、回復力だけを考えるとき、生育の早い品種ほど有利であることに異存はありません。しかし回復力とすりきれ抵抗性は本来別物で、それは芝の緻密性、葉の硬さ、強靱さおよびターフの厚みにあると思われる。そしてそれは返って生育の早くない品種に多い特性でもあります。すりきれ抵抗性は、すなわち「生育の早くない品種」に多いのです。

すりきれ抵抗性が強く、しかも回復力の強さを兼ね備えた芝種がスポーツターフの目標であることに間違いはありません。しかし、相反する特性が多いため、土壌条件、気象条件などに加え、使用頻度、管理技術の巧拙の問題もあり、現地条件や管理体制にマッチした芝種を選び出すのは難しいことです。

もうひとつの強さ—耐病性

また、いまい一方の強さの意味に、耐病性を含む耐放置性や長期安定性があります。これらについて観察するとき、その生育が早く旺盛なものと不安定であることに気がきます。また、最新の交配種など旺盛で密度の高いものほど刈込み回数が多くなり、年3回以上の更新作業を必要とすることとなります。これを放置するとやがてマット状となり、生育に悪影響を与えます。さらに放置を続けると春の萌芽期になっても芽を出さず、自滅することさえあります。これは冬期の気温が低い場所、標高の高い場所によく、播種後3年目くらいによく起きる現象です。しかし、もともと人為的に作られたものではない芝種にはそのようなことはなく、例えば「ひめの」など自然界で突然変異を起こしたり、野外で自生を続ける野生種は何百万年も放置されて生き残ってきたものであり、長期安定性については申し分ありません。

「ひめの」なら、維持管理コストを最小限に抑えつつ、最上級クラスの芝生ファイナールドを手に入れることができます。

ひめの施工例

上下運動公園野球場（広島県甲奴郡上下町）

「ひめの」は農林水産省登録品種です。

「ひめの」の植付けは下記の資材で



ひめの大判ソッド



ひめのゴーローン

幅1.15m×長さ40m（1本約50㎡分）

- ソッドの規格は、各産地によって異なります。別途お問い合わせください。
- ZN工法（二重ネット芝工法）ゴーローンの場合、ティフトン芝等との混地型ブレンド製品もつくれます。詳しくはお問い合わせください。

●詳しい情報は、ホームページでも

<http://www.zoysian.co.jp>

●「ひめの」は、品種登録第9209号の「ヒメノ」を意味します。

●「ひめの」はゾイシアンジャパン株式会社の登録商標です。

お問い合わせは

関西造園土木株式会社

〒652-0047 神戸市兵庫区下沢通2丁目2番21号

TEL (078) 575-0451 FAX (078) 575-0455

URL: <http://www.kanzo.com>

E-mail: office@kanzo.com